

# キッチンカー防災訓練を通じた 災害福祉支援ネットワークの機 能強化、災害コミュニティソー シヤルワークの促進及び会員法 人のBCP策定支援

長野県社会福祉法人経営者協議会

1

## 事業の目的と実施項目

---

### (1) 災害福祉支援ネットワークの機能強化 (11月～)

- ③ キッチンカー防災訓練を通じたネットワークの強化
- ④ 災福ネットセミナーによる多機関連携の促進

### (2) 災害発生時の会員法人支援 (8月)

- ② 災害コミュニティソーシャルワーク研究会設立セミナー

### (3) 会員法人のBCP策定支援 (8月)

- ① 福祉・介護事業所BCP策定推進セミナー

2

## ① 福祉・介護事業所BCP策定推進セミナー

- 8月22日（火）午後、信州大学松本キャンパス（オンライン併用）

- 主な内容

- 「BCP策定のポイントはここだ！」

元社会福祉法人賛育会豊野事業所

事務長 松村 隆氏

社会福祉法人長野市社会事業協会

事務局次長 勝山 淳一氏

医療法人健救会 グループホーム北大手

施設長 本田 隆裕氏

〈助言〉NPO法人さくらネット 代表理事 石井布紀子氏

- 参加者：93名



- 成果

- 災害時BCP策定は「これから取り掛かる」方が多く課題を感じた。
- 長野市社会事業協会本部の「策定ガイドライン」（法人内施設向け）が分かりやすいと好評で、再配布させてもらった。
- BCP策定アドバイザー派遣（19事業所、福祉人材センター財源）

3

## ② 災害コミュニティ・ソーシャルワーク研究会

- 目的

災害ボランティアセンター等の都道府県社協での災害支援活動との連携促進

- 災害時の個別支援が焦点化される中、**地域支援の重要性**を提言していくことを目的に研究会を設立した。

令和元年台風第19号災害の際、長野市北部地域で小地域単位で災害ボランティアセンターのサテライトを開設。**地域公民館9、被災施設2が復旧活動の拠点となり、被災施設職員も活躍した。**

- 実施内容

- 8月22日午前、信州大学松本キャンパス（オンライン併用）

基調説明 「研究会について」

ディスカッション 「日頃のコミュニティワーク※を災害時につなぐ」

講師 NPO法人さくらネット 石井 布紀子氏

参加者 69名（16都県）

※コミュニティワーク、コミュニティソーシャルワーク

- 実施内容

- 阪神淡路大震災や東日本大震災等、過去の大規模災害の被災地社協関係者や支援に携わった学識が加わり研究会の設立となった。
- スタートは、社協職員中心であったが、災害CSWの目指すものを整理し、社会福祉法人関係者にとっての必要性を明らかにして、参加を広げていく必要がある。

4

### ③ キッチンカー防災訓練を通したネットワークの強化

#### ● 目的

- 県・市町村が、防災への「キッチンカー活用」に着目
- 地域の防災訓練等で、DWA T発の「プログラム」づくり
- 障がい者就労支援事業所のキッチンカー活躍促進

#### ● 実施内容 4回計画 → 2回実施



地域の防災訓練  
(安曇野市)  
・防災クイズ  
・DWA T紹介



児童福祉施設  
(岡谷市)  
・避難訓練  
・新聞紙スリッパづくり  
・地域の災害の歴史



#### ● 成果と課題

- チームリーダーが自らの地域で防災学習を提案する際、「キッチンカーが来るよ」がきっかけづくりにできることは確認
- 就労支援事業所のキッチンカーがマッチングできず、課題が残った 5

### ④ - 1 長野県災福ネットセミナーによる他機関連携の促進

#### ● 令和4年度 セミナー



基調講演  
『保健医療福祉支援の連携について』  
国立病院機構 本部DMA T事務局  
災害医療専門職・福島復興支援室  
小早川 義貴 氏

DWA Tに理解のない  
医師には・・・  
「○○○ぺんぺん」  
してあげます！

#### ● 令和6年1月1日 能登半島地震発生

- ① ご縁のあった社会福祉法人佛子園「日本海倶楽部」(能登町)から応援要請
- ② 珠洲市に入っていた小早川先生と連絡「福祉が足りない。DWA Tが必要！」
- ③ 全社協に照会したところ「長野チームの派遣は、2月以降…」

1月8日  
DWA T先遣隊  
能登町へ

能登町保健医療  
福祉調整本部会  
議に参加

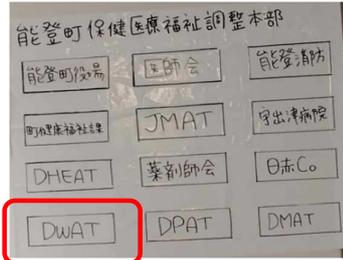
能登町、そして  
石川県知事から  
派遣要請

1月14日  
DWA T派遣  
～3月30日

◆ 連日、避難所  
介護が課題に

## ④ - 2 長野県災福ネットセミナーによる多機関連携の促進

### ● 能登町保健医療福祉調整本部会議



- 指定福祉避難所、立上げ不可
- 長野県DWA Tから福祉避難所の「新設」を提案
- 1月19日に小木支所福祉避難所がスタート

### ● 一般避難所支援と福祉避難所運営



小木中学校避難所



必要物品を寄せ集めて  
福祉避難所準備



DWA Tと地元社協デイ職員が運営。  
医療・保健チームが巡回支援

7

## ④ - 3 長野県災福ネットセミナーによる多機関連携の促進

### ● 長野県災福ネット（緊急）セミナー

令和6年2月15日（木）、オンライン、参加者：163名（内、県外45名）

14:00	開会	
	<p>◆ 能登半島地震 福祉支援活動の取組経過</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 概況報告 厚生労働省 社会・援護局福祉基盤課 課長補佐 清水 修 氏</li> <li>○ 活動経過報告 <ul style="list-style-type: none"> <li>・長野県ふくしチーム活動経過 橋本昌之（長野県社会福祉協議会）</li> <li>・支援現場からの報告 災害支援ナース 石井絹子氏（長野県看護協会） 「1.5次避難所」支援 甲田孝子氏（長野県介護福祉士会） 能登町「避難所」支援 松谷 学氏（大桑村社協） 能登町「福祉避難所」支援 高橋哲也氏（賛育会豊野事業所）</li> </ul> </li> <li>○ コメント ・小早川 義貴 氏</li> </ul>	<p>&lt;コメンテーター&gt; 独立行政法人 国立病院機構本部 DMAT 事務局 災害医療専門職・福島 復興支援室</p> <p>小早川 義貴 氏</p> <p>&lt;コーディネーター&gt; NPO 法人さくらネット 代表理事 長野県社協 防災福祉 アドバイザー</p> <p>石井 布紀子氏</p>
15:20	<p>◆ 信州から能登へ 私たちにできる支援を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 意見交換 信州からの能登へ 息の長い支援を！</li> </ul>	

➡ セミナーを機に、2月下旬～3月分チーム編成促進（9名体制 → 7名体制）

8

# 事業の目標と成果

## 事業の目標

- 1 災福ネットの強化
  - 種別組織等との連携促進
  - 保健・医療との連携促進
  - 市町村との連携促進
- 2 会員法人支援
  - 発災時の人的・物的支援に向けた体制整備
  - 会員間相互応援体制
  - 災ボラ等、県社協との連携
- 3 BCP策定支援
  - BCP・BCM普及促進
  - 合同シミュレーション

## 成果・到達点

- ① 83日間の派遣に耐える体制構築ができた  
25クール（4泊5日）、183人  
のべ929人（移動含む）、実働のべ586人
- ② 現場で多職種連携を実践、信頼獲得
- ③ 災福ネット会員団体の拡大（医療系）  
既）助産師、看護、栄養士会  
新）PT、OT
- ④ 能登半島地震の支援活動に多数の福祉職員が参加。結果として、自法人のBCPの見直し機運が高まっている
  - 地震想定ของ甘さ、水が出ない想定追加
  - 外部支援による福祉避難所【受援・応援】
  - 休業施設職員の人件費確保（福祉避難所）

9

## 課題と今後の取り組み予定・計画

1. 1.5次避難所の設置など広域避難の仕組みが動いたことは画期的。一方で、全ての被災地に速やかにDWA Tが入る体制強化も重要。そのため、自己完結型で活動できるDWA T養成、整備の充実が必要
  - DWA Tの装備充実のための財源確保模索
  - 後方支援体制強化のための災福ネット・県社協の規程改正（検討）
2. 「外部支援による福祉避難所設置」の一般化促進
  - 「出前・福祉避難所立上げセット」助成制度づくりの提案
  - 社会福祉法人連絡会等で「立上げセット」を確保し、被災した際にも、応援にも活用
  - BCP策定においても、このような視点を整理・提案していく
    - 外部支援による福祉避難所【受援・応援】
    - 休業施設職員の人件費を災害支援と連携して確保（R6福祉避難所、R1災害VC）
3. DWA Tの活躍を伝える、福祉・介護の仕事PRにつなげる。
  - 学校、養成校、地域でのPR活動、PR教材作成等

10

〔参考資料〕

長野県DWA T 石川県能登町派遣の概要

月	1月	2月	3月
主な経過	1 ★ <b>発災</b> 8 先遣隊派遣 14 第1クール 19 福祉避難所開所	1 第7クール ★ <b>通水</b> 2 第17クール	14 福祉避難所から退所開始 26 第25クール 27 福祉避難所閉所
避難所全体	63ヶ所 2,898人	49 937	36 568 30 461 28 370
派遣体制	← コーディネーター 1名、7泊8日 → ← 一般避難所 2名、4泊5日 → ← 福祉避難所 5~9名、4泊5日 →		
83日間、25クールのべ929人(継続者のべ586人(実働))			
福祉避難所からの退去先 (3/14入居の15人分)	地元特養(指定福祉避難所) → 5人、自宅等 → 5人 入院・特養入所 → 3人、町外避難 → 2人		



長野県DWA Tの滞在拠点

- 1月、能登町内の民宿
- 2月～、派遣者の増(引継日16名)に合わせ、トレーラハウスとキャンピングカー(企業等提供)で滞在拠点を確保



令和6年2月16日  
NHK「おはよう日本」  
(朝のニュース)  
で能登町でのDWA T  
活動を紹介

**避難所介護 もう限界**

元日の能登半島震災から1週間ほどたった。89名が避難先から3,800人超が避難していた石川県能登町では、複数の避難所から避難民の増加が続いた。避難民の増加は、避難所の運営に大きな負担をかけた。避難所運営の現場では、避難民の増加に伴って、避難所の運営に大きな負担がかかっている。避難所運営の現場では、避難民の増加に伴って、避難所の運営に大きな負担がかかっている。

**開設進まぬ福祉避難所 能登町はゼロから立ち上げた**

1月1日 地震発生、能登町小島地区では小島小学校や小島中学校に避難所が開設される

7日 町内各地の避難所から能登町役場に「要配慮者の世帯をする人が少ない」とSOSが寄せ始める

12日 長野県社会福祉協議会が能登町に「ゼロから立ち上げる福祉避難所の開設」を提案、設置を決める

14日 設置場所を小島地域交流センターに決定

15日 必要な物資を各避難所や長野県社協から取り寄せて準備を急ぐ、受け入れる要配慮者もリストアップ

19日 小島地域交流センターに定員20人の福祉避難所開設、最初の避難者は3人だった

19日 長野県社協に加入、小島デイサービスセンターも運営に参画、近くの小島クリニックも診療に訪れ医療的な支援で協力

3月16日 地元の社会福祉施設で避難者の受け入れが可能になる

18日 避難者全員の移転先の見直しがあり、福祉避難所の閉鎖が決定

27日 避難者の移動が完了し、福祉避難所を閉鎖

28日 長野県社協が帰路に